

土岐市駅周辺まちづくり基本計画

目次

1. 計画の位置づけと目的

- 1-1. 背景・目的 2
- 1-2. 計画の位置づけ 2
- 1-3. 計画期間 2
- 1-4. 対象区域 2
- 1-5. 計画の構成 2
- 1-6. 計画の目標 3

参考資料 まちづくり基本構想(まちづくり方針)..... 4

2. 先導プロジェクト 5

3. まちなかにおける取組み

- 3-1. 多様な育みのゾーン形成に向けた取組み 6
- 3-2. 美濃焼文化の拠点形成に向けた取組み 10
- 3-3. まちなか交流軸形成に向けた取組み 13
- 3-4. まちなか水辺軸形成に向けた取組み 16
- 3-5. まちなかにおける取組み(全体図) 18

4. 計画の推進方策

- 4-1. 基本方針 19
- 4-2. (仮称)土岐市駅周辺まちづくり推進会議 19
- 4-3. 土岐市まちなかプラットフォーム 20
- 4-4. まちづくり会社 20
- 4-5. 情報収集・発信の仕組み 21
- 4-6. 関係者の役割 21

5. スケジュール 22

1. 計画の位置づけと目的

1-1. 背景・目的

土岐市では、まちなか居住の推進等による持続的なまちづくりに向け、令和7年6月に土岐市駅周辺まちづくり基本構想（以下、「基本構想」という。）を策定した。基本構想では、まちの将来像と、その実現に向けた方向性についての全体像を示した。

限られた財源や人材の中で、取組みの優先順位も考慮し、**まちなか居住**を効果的に促す実行可能な事業や取組みを整理し、基本構想で定めた**将来像を実現していくためのマスタープラン・指針**として、土岐市駅周辺まちづくり基本計画（以下、「基本計画」という。）を策定する。

1-2. 計画の位置づけ

全体計画

- 土岐都市計画区域の整備、開発及び保全の方針
- 第七次土岐市総合計画
- 土岐市都市計画マスタープラン
- 第3期土岐市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 土岐市景観計画
- 土岐市立地適正化計画（策定中）

個別計画

- 文化財保存活用拠点(仮称)基本構想
- 文化財保存活用拠点(仮称)基本計画

土岐市駅周辺まちづくり基本構想

土岐市駅周辺まちづくり基本計画

1-3. 計画期間

基本計画の計画期間は、基本構想のロードマップで示された、短期～中期である「**2026年度～2030年度**」とする。

まちづくり基本計画

短期
2026年度～
2028年度

中期
2029年度～
2030年度

長期
2031年度～
2034年度

長期
以降

1-5. 計画の構成

土岐市駅周辺まちづくり基本計画

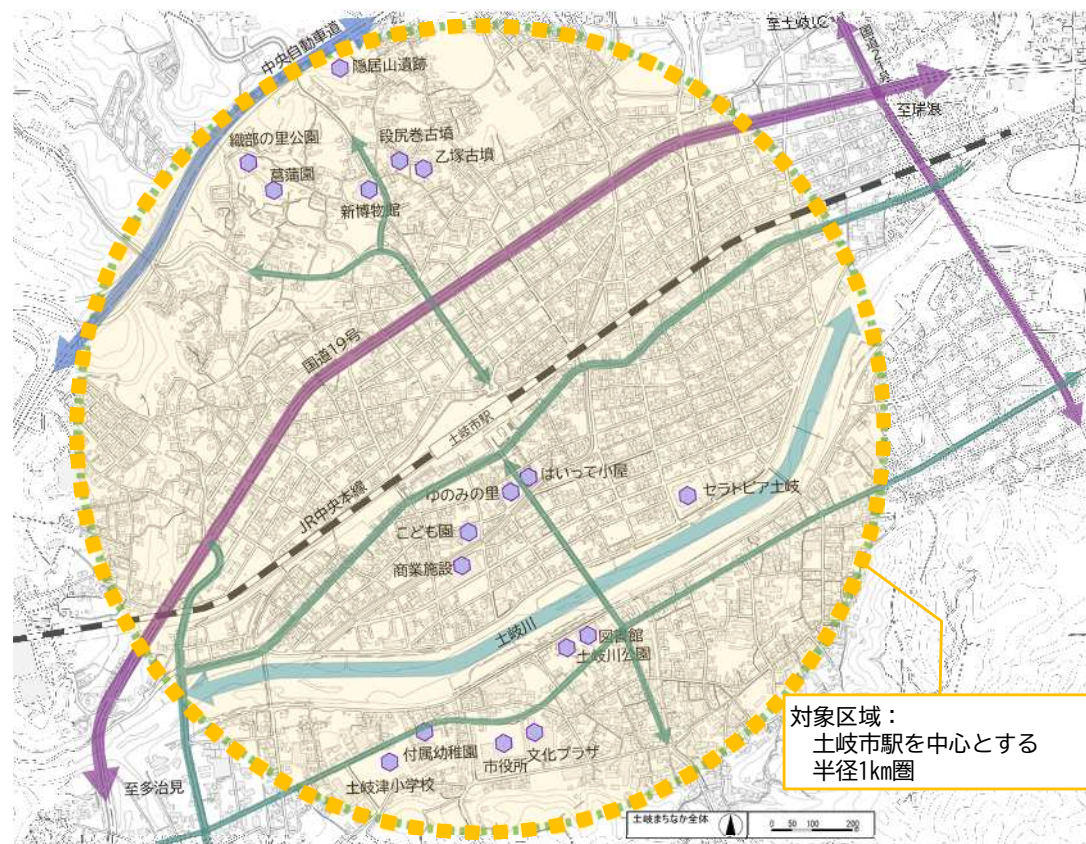
① 先導プロジェクト

取組みの波及効果等を勘案し**5年以内に事業に着手**するプロジェクト

② 展開プロジェクト

先導プロジェクトの効果の検証、実現可能性、コスト面等を勘案し、**5年以内の検討等に着手**するプロジェクト

1-4. 対象区域



1-6. 計画の目標

先導プロジェクトを推進し、まちづくりを先導する、新たなまちの骨格形成

【目標】

土岐市駅周辺における新たなまちの骨格が、ハード・ソフト両面から形成され、「多様な世代の笑顔があふれる、人が人を呼ぶまちなか」につながる暮らしや活動が展開されている状態を目指す

■評価方法：複数のアウトカム指標・アウトプット指標を踏まえ評価

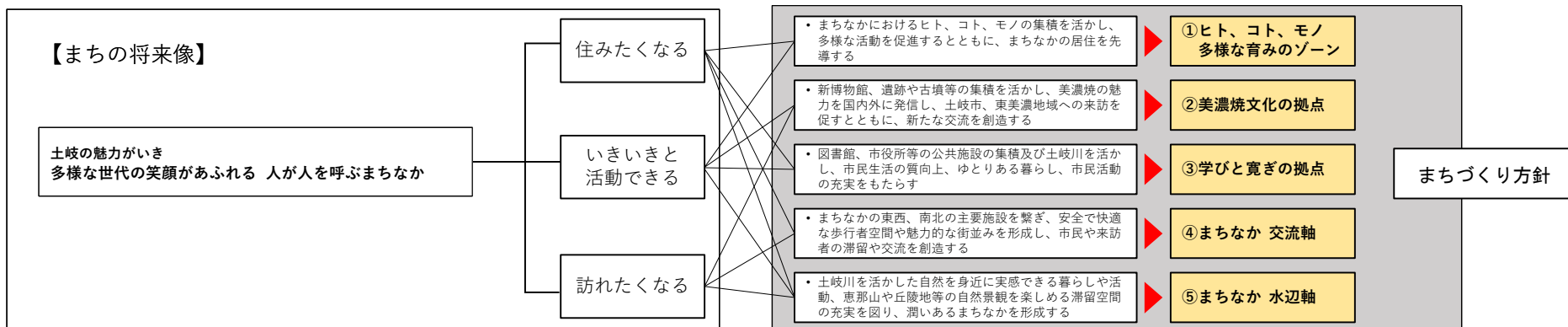
(定義)

アウトカム：取組の成果や効果の現れを把握するための指標

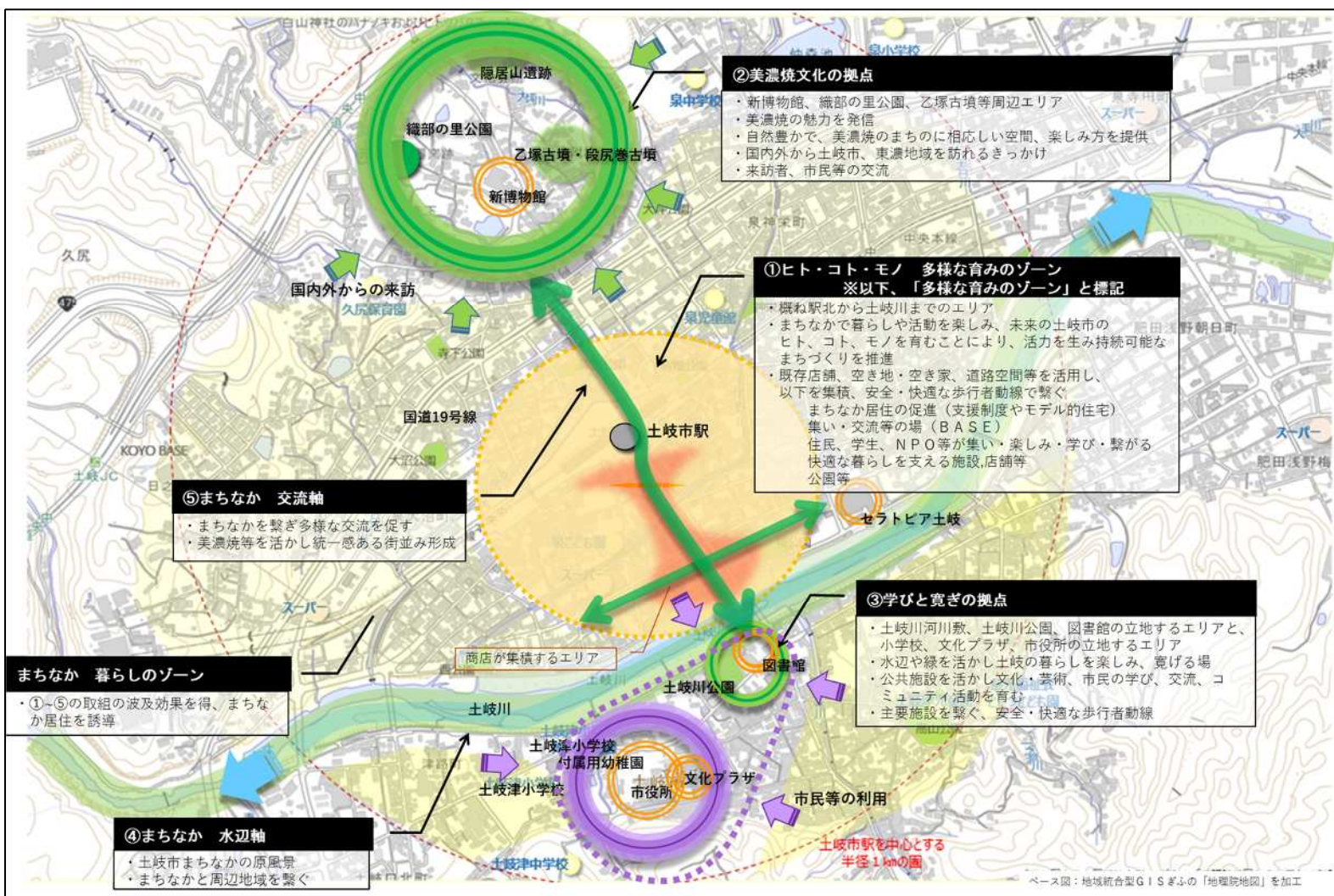
アウトプット：事業や制度の実施状況を確認するための指標

	指標	現状 (2025)	目標 (2030)	各ゾーン		
				多様な育みの ゾーン	美濃焼文化 の拠点	まちなか 交流軸
アウトカム指標	①土岐市の暮らしやすさ (%)	69.7	70以上	○		
	②子育ての環境や支援に満足している人の割合 (%)	70.4	80.0	○		
	③「駅周辺の整備」に関する市民満足度 (%)	12.7	15.0	○		○
	④多様な育みのゾーンにおける年少人口(人)	217	240	○		
	⑤BASE(はいつて小屋)の利用人数(人)	1,719	2,000	○		
	⑥文化財保存活用拠点(仮称)を中心とした周辺地域の集客数(人)	16,581	82,000		○	
アウトプット指標	⑦BASEの設置数(箇所)	—	2	○		○
	⑧まちの運営主体の組織化(件)	—	1	○		
	⑨補助金等の支援制度の創設・拡充数(件)	—	3	○		
	⑩博物館ボランティアの発足(件)	—	1		○	

(注) まちなか水辺軸については、「展開プロジェクト」のみであるため、評価対象からは除外している。



まちづくり方針図



○ 先導プロジェクト設定のフロー

(1) 個々の取組みの相対的評価

まちづくり構想に位置づけられた今後5カ年間の取組みを、市民ニーズ、他との波及・相乗効果、コスト等から相対的な優劣を評価

(2) まちなか居住促進に向けたシナリオ

まちなか居住を促す要素、進捗中の事業等を勘案し、強みと機会を活かすシナリオ検討

(3) 先導プロジェクトの設定

上記シナリオに基づき、今後5年間に優先的に取組む先導プロジェクトを設定

(1) 個々の取組みの相対的評価

・5カ年の取組みイメージ、ロードマップ（基本構想より）

短期（準備・試行）：まちづくり構想実現に向け、構想の周知、計画検討、社会実験や先導事業の着手、支援制度の創設などを推進

中期（先導拠点形成）：美濃焼文化の拠点、多様な育みのゾーンにおける取組み、水辺軸の形成等により、まちづくりを先導する拠点形成等を推進

■基本構想に位置付けられた取組の相対的評価

エリア	短期～中期における取組み	①ワークショップ等での市民ニーズ	②波及・相乗効果の大きさ	③既に検討・取組みが開始	④費用面での優位性
多様な育みのゾーン	01 まちなか居住の促進(住宅整備・供給)		●		●
	02BASE(居場所)の段階的設置・自律的運営	●	●	●	●
美濃焼文化の拠点	03 新博物館及び周辺整備	●	●	●	
	04 東美濃6市1町と連携したプロモーションの実施				●
まちなか交流軸	05 駅南北地下通路改修	●	●		●
	06協働による緑化				●
	07 コミュニティガーデンの整備				●
	08高質化検討	●			
まちなか水辺軸	09土岐川沿い遊歩道整備・活用プログラムの検討				●
	10 土岐川活用プログラムの実施 川辺拠点の形成検討				●
共通	11 プロモーションの実施	●		●	
	12補助・支援制度の検討		●	●	●
	13 まちづくり団体への支援		●	●	●
	14 まちづくり中間組織の検討	●	●	●	●
	15 個別事業の計画の検討・策定			●	●
	16 新たなモビリティサービスに向けた調査・検討等	●	●	●	

(2) まちなか居住促進に向けたシナリオ

・まちなか居住を促す要素（まちづくり構想より）

- ①魅力的な住環境
- ②地域への愛着・繋がり
- ③地域内での就業

・進行中の事業：美濃焼文化の拠点における新博物館・周辺整備 2030年度に完了予定

まちなか居住に向けたシナリオ

多様な育みのゾーンと美濃焼文化の拠点の形成・連携により、地域の魅力を高めつつ、まちなか居住のトリガーとなる取組（事業）に着手するとともに、プル施策としての支援制度の拡充等を図る

I 多様な育みのゾーン

市民との共創、公民連携により、まちなかにおける新たなライフスタイルを提示する魅力的な住環境の形成及び多様な世代がしやすい新たな居場所（BASE）の形成により、まちなか居住を牽引

II 美濃焼文化の拠点

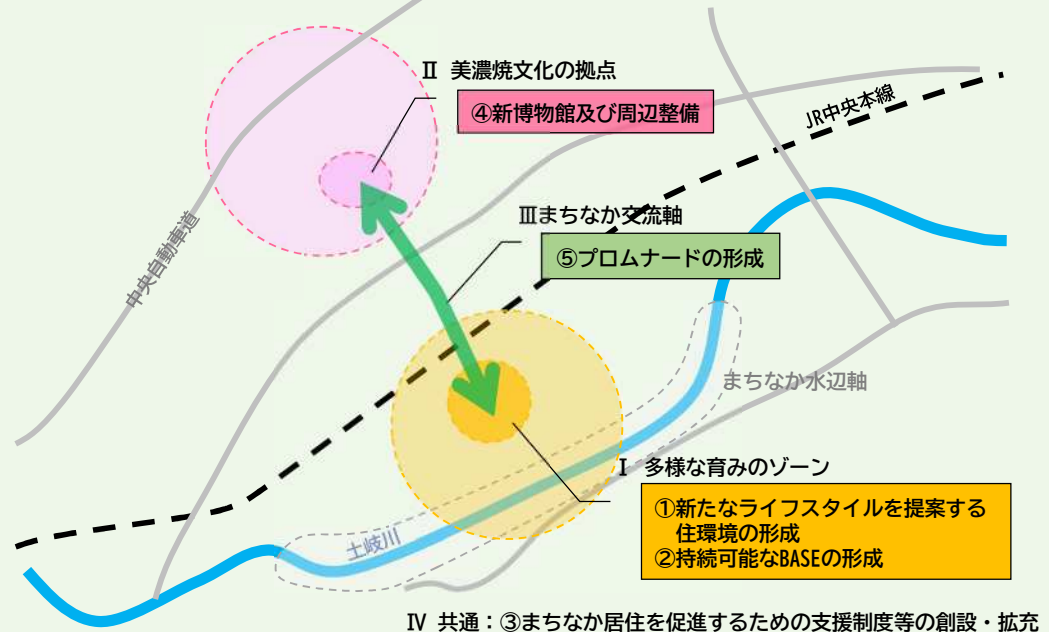
新博物館の整備及びそこでの活動により地域への愛着・繋がり深化&関係人口増

III まちなか交流軸

多様な育みのゾーンと美濃焼文化の拠点を結ぶ心地良い歩行者動線（プロムナード）の形成

IV 共通：まちなか居住を促進する取組に係る補助、支援制度の創設・拡充

(3) 先導プロジェクト ※まちなか水辺軸は展開プロジェクトと位置付け



3-1. 多様な育みのゾーン形成に向けた取組み

現況

▶ まちなか居住に関すること

- ① 若年世代の流出、自然減による人口・世帯の減少が顕著。
- ② 人口・世帯の減少に伴い空き家・空き地が増加。今後も増加が懸念される。
- ③ 新たな住宅供給は少なく、価格以外の魅力が訴求できていない。
- ④ 低未利用地の意向状況等が把握できておらず、土地活用の可能性が不明である。
- ・この状況が続けば、まちなかでの暮らし、経済活動等への悪影響を懸念

▶ 市民等の居場所に関すること

- ① BASE機能を有する既存の取組みあり
 - ・BASE（居場所）機能を有する施設が継続的に運営されている。
 - 1) コミュニティスペース「はいつて小屋」
 - 2) 土岐市役所多目的スペース
- ② 民間主導によるBASEの取組み
 - ・R7年度春から民間主導でBASE形成に向けた動きが見られる。
 - 例) 商業施設内フリースペース、こども食堂、多目的レンタルスペース
- ③ ニーズ
 - ・駅直近で通学途中に立ち寄れる居場所を求める声がある（高校生）。

主な課題

▶ まちなか居住の推進

- ① 地域の魅力を底上げする住まいの提供と、新たなライフスタイルの実現
- ② 若年層の移住・定住に資する就業環境整備
- ③ 空き地・空き家の活用を推進する公民連携の仕組みづくり
- ④ 低未利用地を活用し、まちなかでの快適な暮らしの実現方策の検討

▶ BASE（居場所）づくり

- ① 既存の取組みの拡充や他と連携した新たなBASE形成
- ② 民間主導のBASEの持続性の向上
- ③ BASEに関与する人材の充実・多様化



新たなライフスタイルを提案する住環境の形成

1. まちなかオアシスの形成

- ・はいつて小屋等の機能充実、多様化
- ・周辺施設が連携する新たな拠点形成

2. 駅南プレイスの形成

- ・公民連携による駅前の顔づくり

3. まちなか居住先導ゾーンの形成

- ・市有地を活用した住宅地整備

4. 駅南プロムナードの形成

先導
プロジェクト
1



まちなか居住を促進するための支援制度等の創設

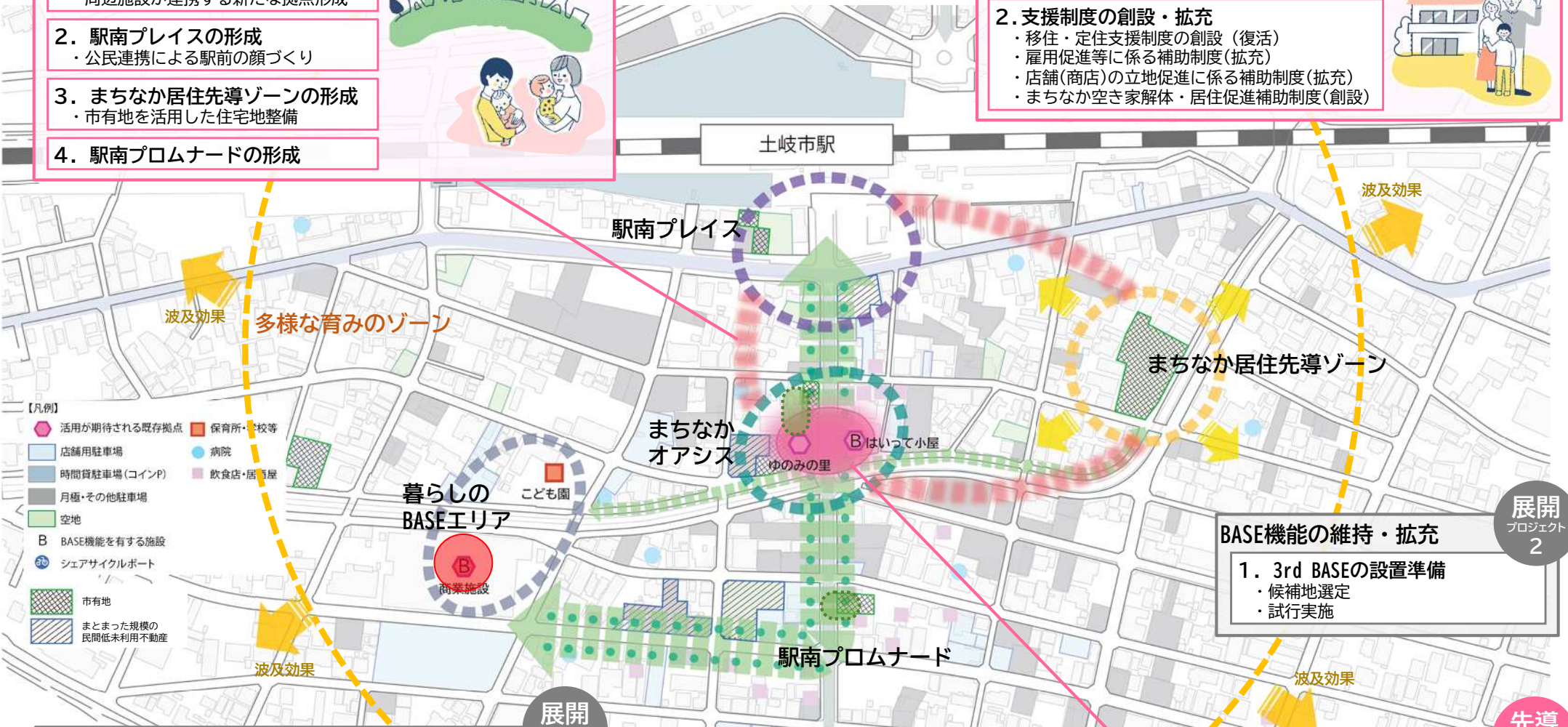
1. 土地活用ニーズの把握

- ・低未利用地の土地活用に係るニーズの把握

2. 支援制度の創設・拡充

- ・移住・定住支援制度の創設（復活）
- ・雇用促進等に係る補助制度（拡充）
- ・店舗（商店）の立地促進に係る補助制度（拡充）
- ・まちなか空き家解体・居住促進補助制度（創設）

先導
プロジェクト
2



- 【凡例】
- 活用が期待される既存拠点
 - 店舗用駐車場
 - 時間貸駐車場（コインP）
 - 月極・その他駐車場
 - 空地
 - B BASE機能を有する施設
 - シェアサイクルポート
 - 保育所・学校等
 - 病院
 - 飲食店・居酒屋
 - 市有地
 - まとまった規模の民間低未利用不動産

BASE機能の維持・拡充

1. 3rd BASEの設置準備

- ・候補地選定
- ・試行実施

展開
プロジェクト
2

まちなかへの波及を促す取組の検討

1. 暮らしのBASEエリアの機能拡充

- ・公園機能の導入検討
- ・モビリティ機能の充実検討

2. その他

- ・青空駐車場（店舗利用含む）等の集約化検討
- ・民間低未利用不動産の活用誘導
- ・市有地を活用した住宅・就業環境の整備

展開
プロジェクト
1



持続可能なBASEの形成

1. 2nd BASEの形成

- ・既存機能・活動を拡充した新たなBASE形成
- ・多様な主体の参画による活動・運営

2. 1st BASEの持続可能性の向上

- ・運営者へのハンズオン支援
- ・活動主体への支援

先導
プロジェクト
3



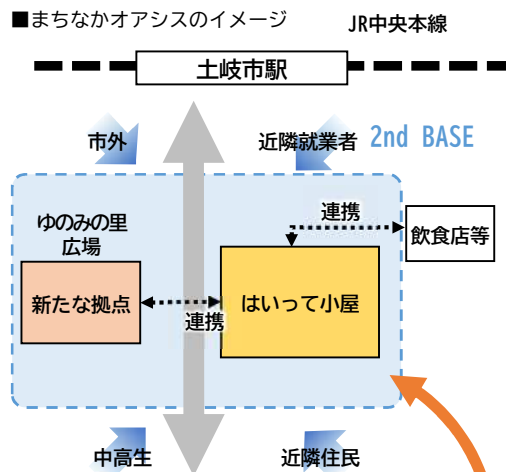
先導プロジェクト1 新たなライフスタイルを提案する住環境の形成

1. まちなかオアシスの形成

- ①既存の居場所機能の充実、多様化
 - ・はいつて小屋と周辺施設との連携

②ゆのみの里広場も活用した新たな拠点形成

- ・はいつて小屋と連携し、まちづくり活動やBASE（活動や運営）、その他市民ニーズに対応した活用

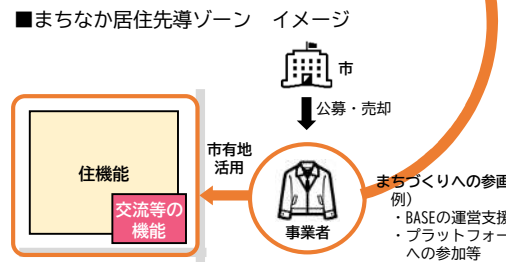


2. 駅南プレイスの形成

- ①公民連携による駅前の顔づくり
 - ・市、民間の低未利用不動産の活用検討 等

3. まちなか居住先導ゾーンの形成

- ①市有地を活用した住宅地整備
 - ・市有地を住宅用地としての活用
 - ・民間事業者のまちづくりへの参画可能性検討



4. 駅南プロムナードの形成

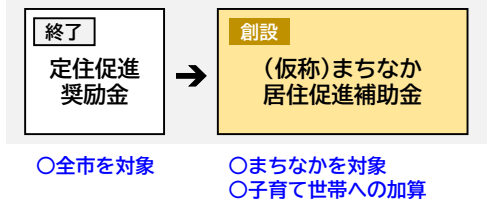
- ・「3-3. まちなか交流軸」に記述

先導プロジェクト2 まちなか居住を促進するための支援制度等の創設・拡充

1. 土地活用ニーズの把握

- ①低未利用地の土地活用に係るニーズの把握
 - ・地権者向けアンケート等の実施

■移住・定住支援制度 創設イメージ



2. 支援制度の創設・拡充

①移住・定住支援制度の創設（復活）

- ・住宅取得等に係る補助制度（（仮称）まちなか居住促進補助金）を創設

②雇用促進等に係る補助制度の拡充

- ・職住近接を実現に向け、雇用機会の拡大、空き不動産の活用等を図るため、企業立地促進奨励金制度を拡充

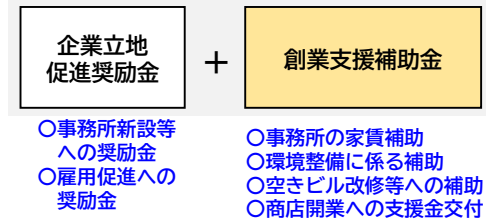
③店舗（商店）の立地促進に係る補助制度の拡充

- ・店舗等の新規出店、開設、移設等による集客力向上とそれに伴う賑わいの創出を図るため、創業支援補助金を拡充

④まちなか空き家解体・居住促進補助金の創設

- ・移住・定住人口の拡大、多世代が循環する活気あるまちづくりの推進に向け、宅地利用を促すため、空き家の解体費用補助金を創設

■雇用促進・店舗立地促進補助制度 拡充イメージ



■空き家解体・居住促進補助制度 対象エリア



展開プロジェクト1 まちなかへの波及を促す取組みの検討

1. 暮らしのBASEエリアの機能拡充

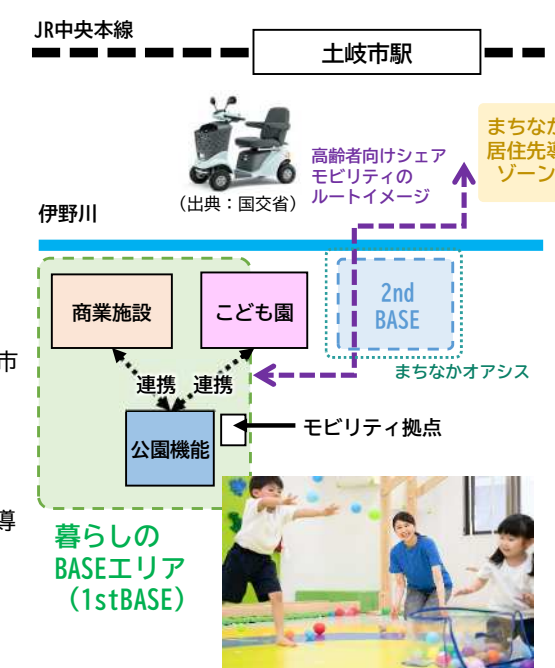
①公園機能の導入検討

- 例) こどもが楽しめるプレーパーク

②モビリティ機能の充実検討

- 例) ・モビリティポート設置
- ・シェアサイクル、高齢者向けシェアモビリティ導入

■暮らしのBASEエリア イメージ



2. その他（上記以外の取組み）

①青空駐車場（店舗利用含む）の集約化検討

- ・点在する複数の駐車場（月極、店舗用、市営）をコンパクトに集約

②民間低未利用不動産の活用誘導

- ・所有者の土地活用ニーズの把握
- ・利用者とのマッチングによる多様な利用誘導
- 例) ・住宅整備
- ・さかさま不動産の活用 等

③市有地を活用した住宅・就業環境の整備

- ・民間事業者へ条件付きで市有地譲渡

先導プロジェクト3 持続可能なBASEの形成

1. 2nd BASEの形成

① 既存機能・活動を拡充した新たなBASE形成

既にある機能や施設を活用し、多様な世代が利用できる2つ目の居場所(2nd BASE)を形成

- ・ 場所：はいつて小屋及びその周辺
- ・ 対象者、機能、運営は以下を想定

	既存	拡充
対象	高齢者	学生、社会人、子育て世代
機能	憩い、交流	相談、交流、自習、遊び、子育て支援
運営	土岐市生活学校	まちづくり会社等

② 多様な主体の参画による活動・運営

試行実施を通じ、利用ニーズの把握、市民参加型の運営の仕組みを構築

i) 利用ニーズの把握（はいつて小屋等を活用）

- 例) 学生の居場所
- 子育て世代の利用
- 多世代の交流

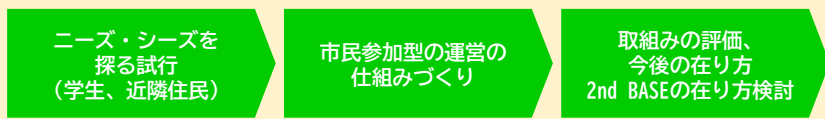
ii) 市民参加型の運営の仕組みづくり

- 例) NPO、学生、市民の参加（協働）を促すインセンティブ付与、スタートアップ時の支援



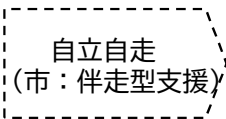
iii) 自立化のプロセス

5年間のプロセス



～2030年度

2031年度～



2. 1st BASEの持続可能性の向上

民間主導で始動した1stBASEの持続可能性を高めるため、以下に取り組む

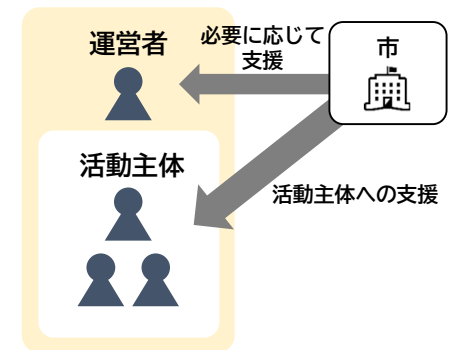
① 運営者へのハンズオン支援

- ・ 民間事業者の取組みに市が伴走、必要に応じた支援の実施

② 活動主体への支援

- ・ 市民活動の実施を促す支援制度等の拡充 (まちづくり事業費補助金の拡充)

■1st BASEのイメージ



展開プロジェクト2 BASE機能の拡充

1. 3rd BASEの設置準備

1st及び2nd BASEの利用状況、運営状況、課題等を把握し、3番目となるBASEの設置に向けた準備を推進

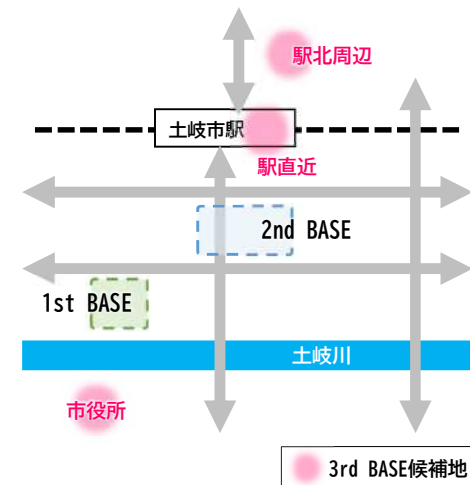
① 候補地選定

- ・ 立地環境や住民ニーズ・シーズ等を勘案し、候補地を抽出、選定
- ・ 候補地：市役所、駅直近、駅北周辺
- ・ 対象：小・中・高校生と社会人
- ・ 機能：カフェ、学び、交流

② 試行実施

- ・ 他のBASEにおける取組み等を踏まえ、試行実施を検討

■3rd BASEのイメージ



3rd BASE候補地

現況

➤ 新博物館

- 土岐市文化財保存活用拠点（仮称）
 - ・土岐市文化財保存活用拠点（仮称）の整備に向け、2021年に土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本構想が策定される。
 - ・構想の内容を踏まえ、事業活動や施設、展示等の各計画の具体化を図るため、土岐市文化財保存活用拠点（仮称）基本計画が策定されている。

➤ 新博物館周辺

- 公園・史跡
 - ・織部の里公園：美濃桃山陶への理解を深め、楽しむための公園
 - ・元屋敷陶器窯跡（国指定）：織部の里公園内にて公開中
 - ・乙塚古墳附段尻巻古墳（国指定）：2022（令和4）年度に整備工事完了
 - ・隠居山遺跡（市指定）：公開中
 - ・案内表示やサイン等が少ない。
- 道路
 - ・新博物館から菖蒲園・織部の里公園、また乙塚古墳・段尻巻古墳・隠居山遺跡方面への道路幅員は狭くなっている。
- 観光
 - ・観光ガイドの会メンバーによる、史跡めぐりや出前歴史講座が実施されている。

①新博物館 イメージパース



◇新博物館の整備候補地
・現敷地、現駐車場を想定。

②織部の里公園



・美濃桃山陶が体験でき、理解を深めることができる公園。
◇二次交通の不足
・駅からは少し離れており、徒歩でのアクセスはしづらい。

③新博物館から織部の里公園方面



・新博物館から織部の里公園までの歩行者動線の魅力が不足している。
・道路幅員が狭い。
・案内表示やサイン等が不足し、誘導性が低い。

④段尻巻古墳・乙塚古墳

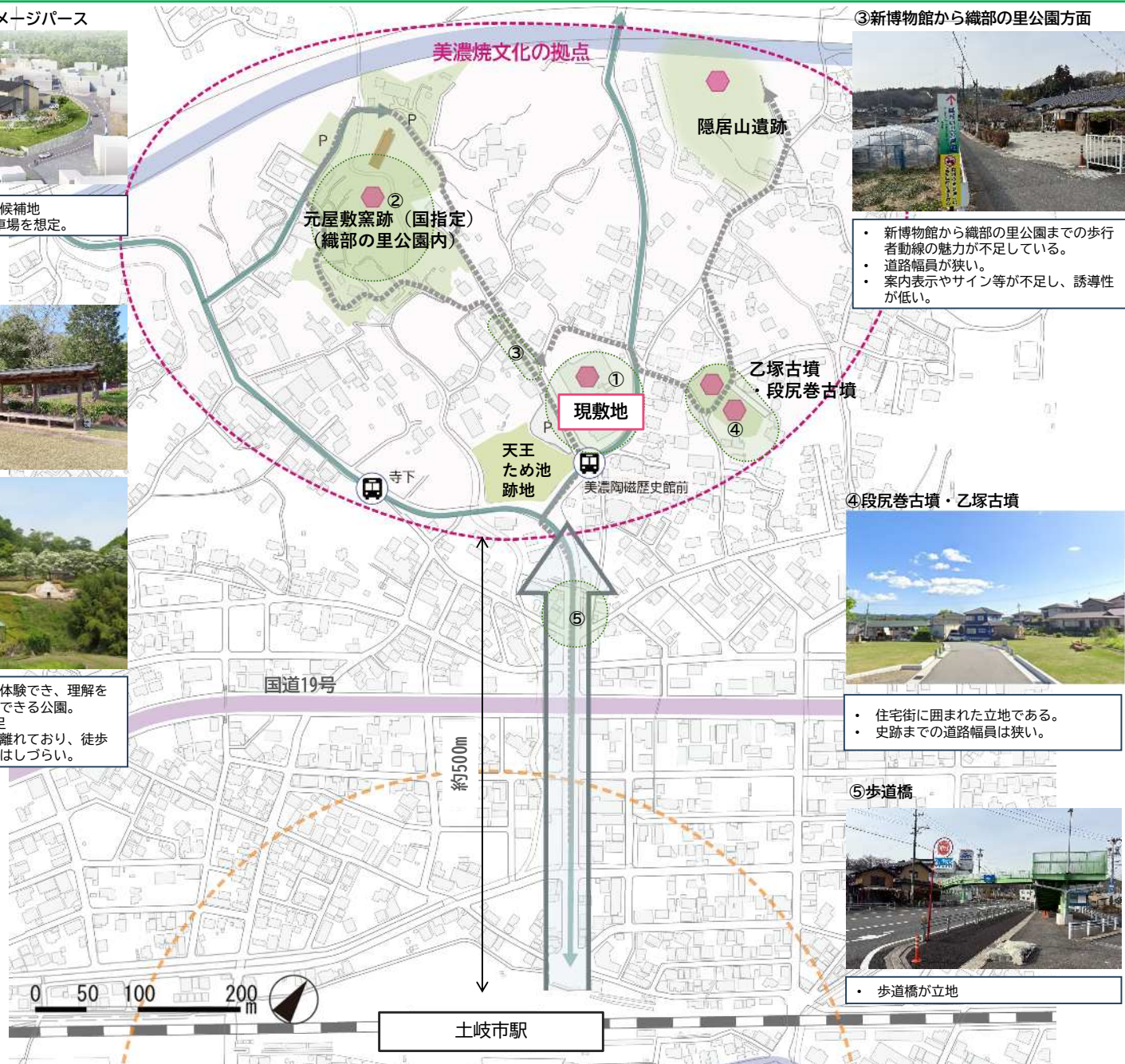


・住宅街に囲まれた立地である。
・史跡までの道路幅員は狭い。

⑤歩道橋

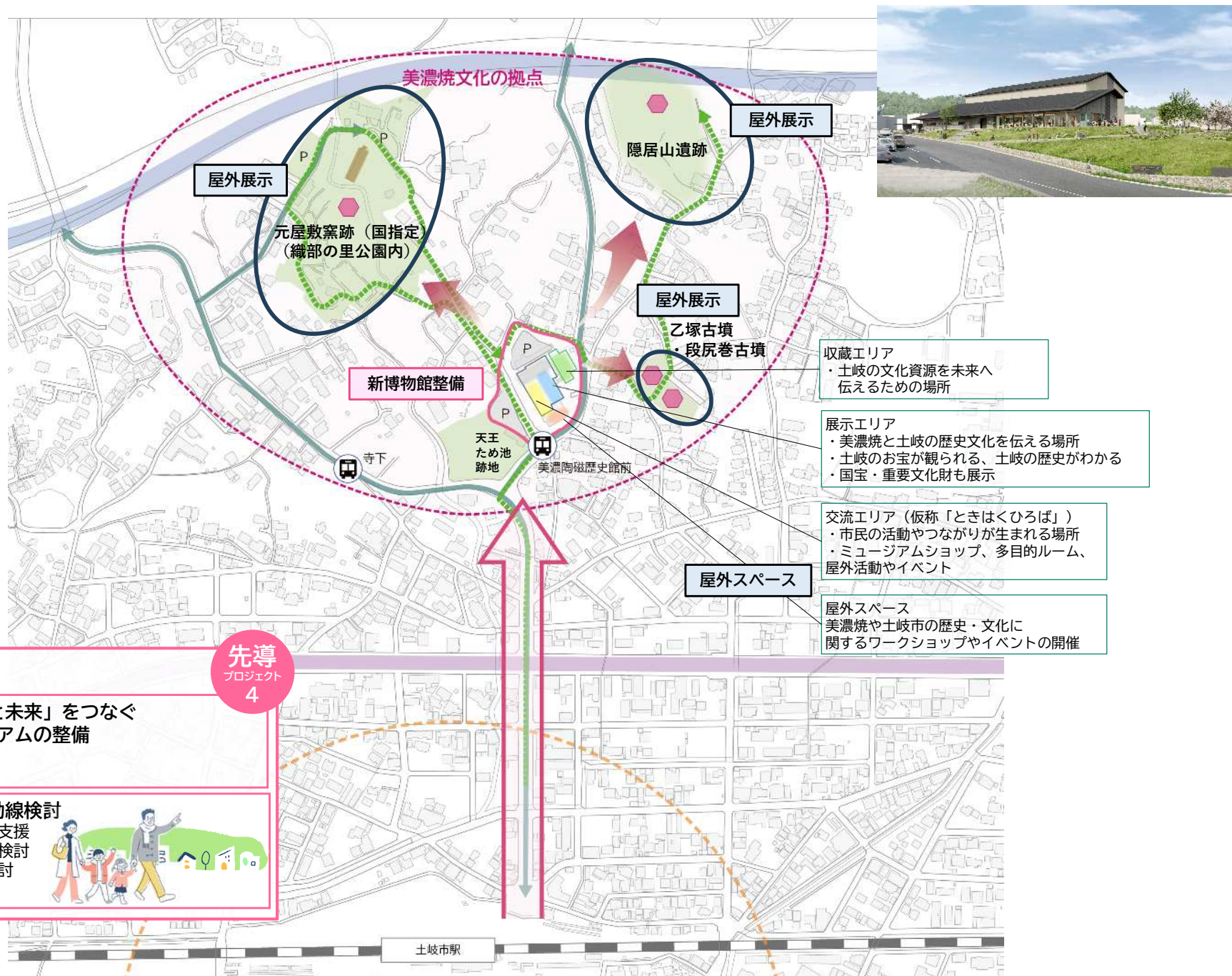


・歩道橋が立地



主な課題

- ① 美濃焼、土岐市の歴史・文化による魅力向上を図るための新博物館整備の推進
- ② 新博物館開館に合わせた、道路空間の高質化等による歩行者ネットワーク化の推進
- ③ 新博物館と連携する施設として、天王ため池地の有効活用



新博物館及び周辺整備等

先導
プロジェクト
4

1. 「土岐と美濃焼」の「歴史と未来」をつなぐ
サードプレイス・ミュージアムの整備

- ・施設等整備
- ・活動の基盤づくり、管理運営

2. 新博物館への誘客に向けた動線検討

- ・プロムナード沿道の民有地の緑化支援
- ・新博物館プロムナードの高質化等検討
- ・新博物館への交通利便性向上の検討



収蔵エリア
・土岐の文化資源を未来へ
伝えるための場所

展示エリア
・美濃焼と土岐の歴史文化を伝える場所
・土岐のお宝が観られる、土岐の歴史がわかる
・国宝・重要文化財も展示

交流エリア（仮称「ときはひろば」）
・市民の活動やつながりが生まれる場所
・ミュージアムショップ、多目的ルーム、
屋外活動やイベント

屋外スペース

屋外スペース
美濃焼や土岐市の歴史・文化に
関するワークショップやイベントの開催

土岐市駅

先導プロジェクト4 新博物館及び周辺整備等

1. 「土岐と美濃焼」の「歴史と未来」をつなぐサードプレイス・ミュージアムの整備

➤ 施設等整備

- ① 多様な利用者が気軽に訪れ、活動、交流するすべての人に開かれた施設の整備
 - ・ユニバーサルデザインを前提とする施設整備
 - ・市民による活動や研究、公開、発表等ができる場を整備
 - ・ビジター向けの観光情報発信や、乳幼児連れ、若年層等も気軽に訪れ、快適に利用できる空間
→ つながりエリア「みやのき commons」にぎわいエリア「ときはくひろば」
- ② 公園や史跡との一体性、周辺環境への配慮
 - ・織部の里公園や乙塚古墳、段尻巻古墳等との一体性に配慮
 - ・安全性に配慮した駐車場の確保及び導入路を検討
 - ・駅や国道からも分かりやすいサイン整備
- ③ 新博物館と連携する施設として、天王ため池跡地の有効活用

➤ 活動の基盤づくり、管理運営

- ① 博物館ボランティア制度の設立
 - ・ボランティアの制度設計及び運用イメージ等の検討
 - ・学校団体の活動を補助する学習サポーターと解説案内員の育成、準備
- ② 効果的な展示、プログラムの展開
 - ・学校団体利用の多い時期に合わせた地域学習の展示の充実
 - ・学校の長期休暇・地域の祭、イベント等に合わせた展示や体験プログラムの実施

■新博物館 鳥瞰イメージパース



■新博物館 内観イメージパース



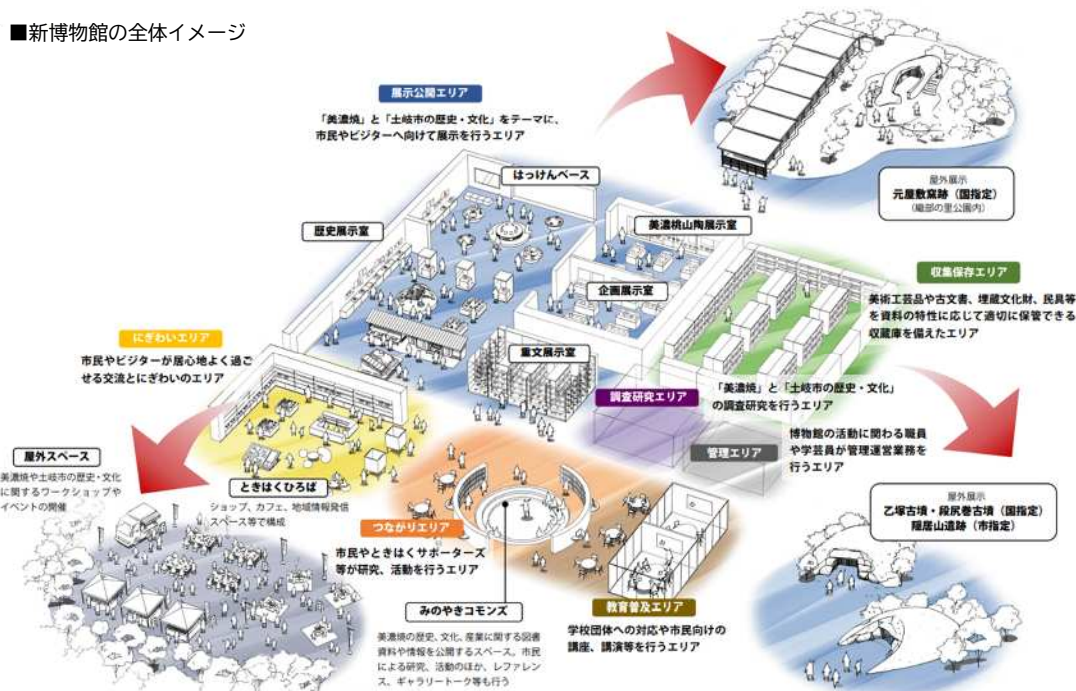
■つながりエリア「みやのき commons」



■にぎわいエリア「ときはくひろば」



■新博物館の全体イメージ



2. 新博物館への誘客に向けた動線検討

- ① プロムナード沿道の民有地の緑化支援
 - ・「3-3. まちなか交流軸」に記載
- ② 新博物館プロムナードの高質化等検討
 - ・誘客や回遊性の向上に繋がる整備や取組みを実施例) ・駅での屋外展示に関する情報発信
→ デジタルサイネージ、看板、バナーフラッグの設置
 - ・多言語対応の案内表示、サイン等の充実
- ③ 新博物館への交通利便性向上の検討
 - ・シェアサイクルポートの設置検討 (駅周辺、新博物館等)

■多言語対応案内 イメージ



現況

➤道路・歩行者空間

- ・市道土岐市駅北口線：全幅16m、歩道幅員2.5m。駅北側から新博物館方面へ繋がる道路。国道19号との交差点まで自転車道がある。
- ・県道69号：全幅12m、歩道幅員2.5m。全幅改札口から土岐川方面へ繋がる道路。

➤地下通路

- ・駅東側に位置する地下通路は、駅南北を繋ぐ重要な歩行者ネットワークとして機能する。
- ・市民意識調査では、「地下道は暗くて怖い」等、安全性の向上を求める意見が挙げられている。

➤土地利用

- ・駅北側は住宅利用がメイン、駅南側は住宅以外に飲食店、美容室・理容室が多く立地している。
- ・月極・時間貸駐車場（低未利用地）が多く立地している。

➤自然・緑

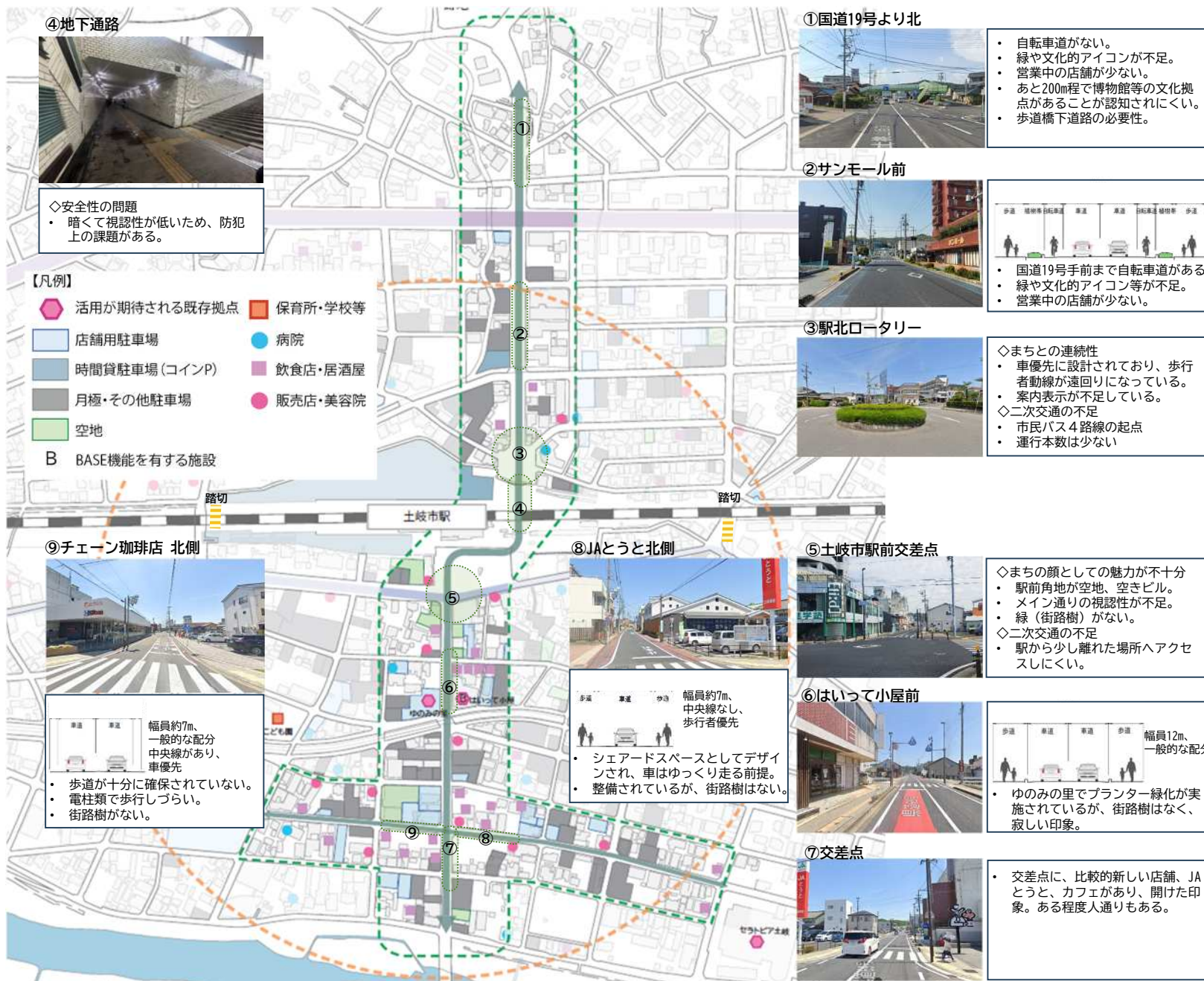
- ・駅前及び駅前通りには、緑が少ない。
- ・景観計画では、商業・業務地域（駅周辺等）において「沿道の緑化等により、緑の回廊の形成を図る」と記載されている。

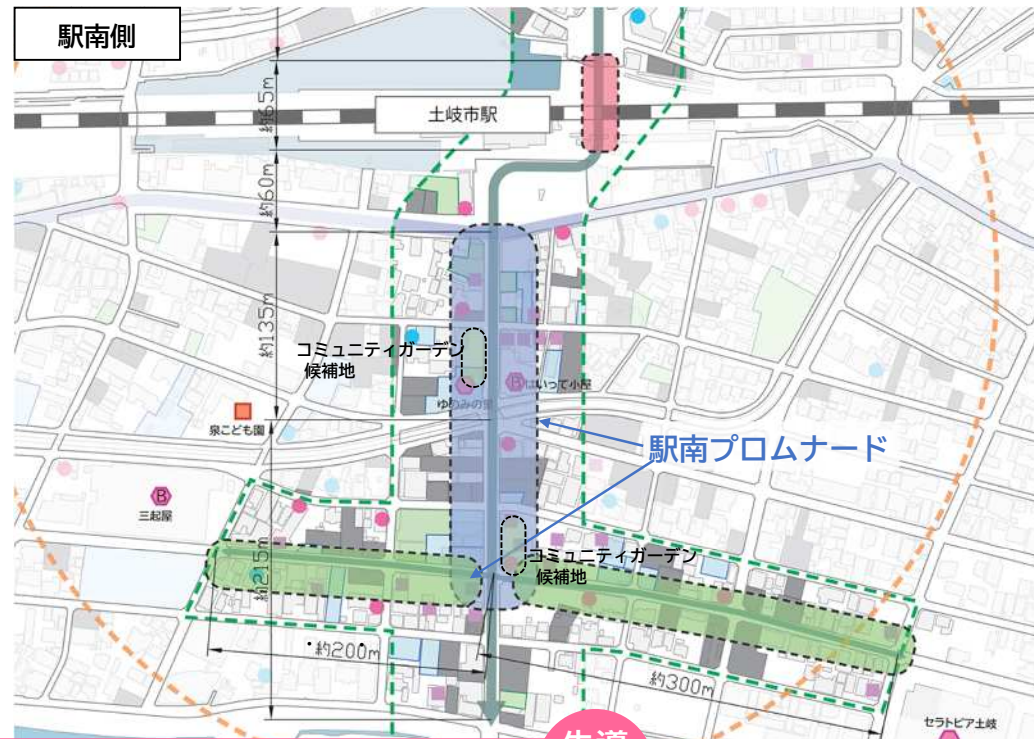
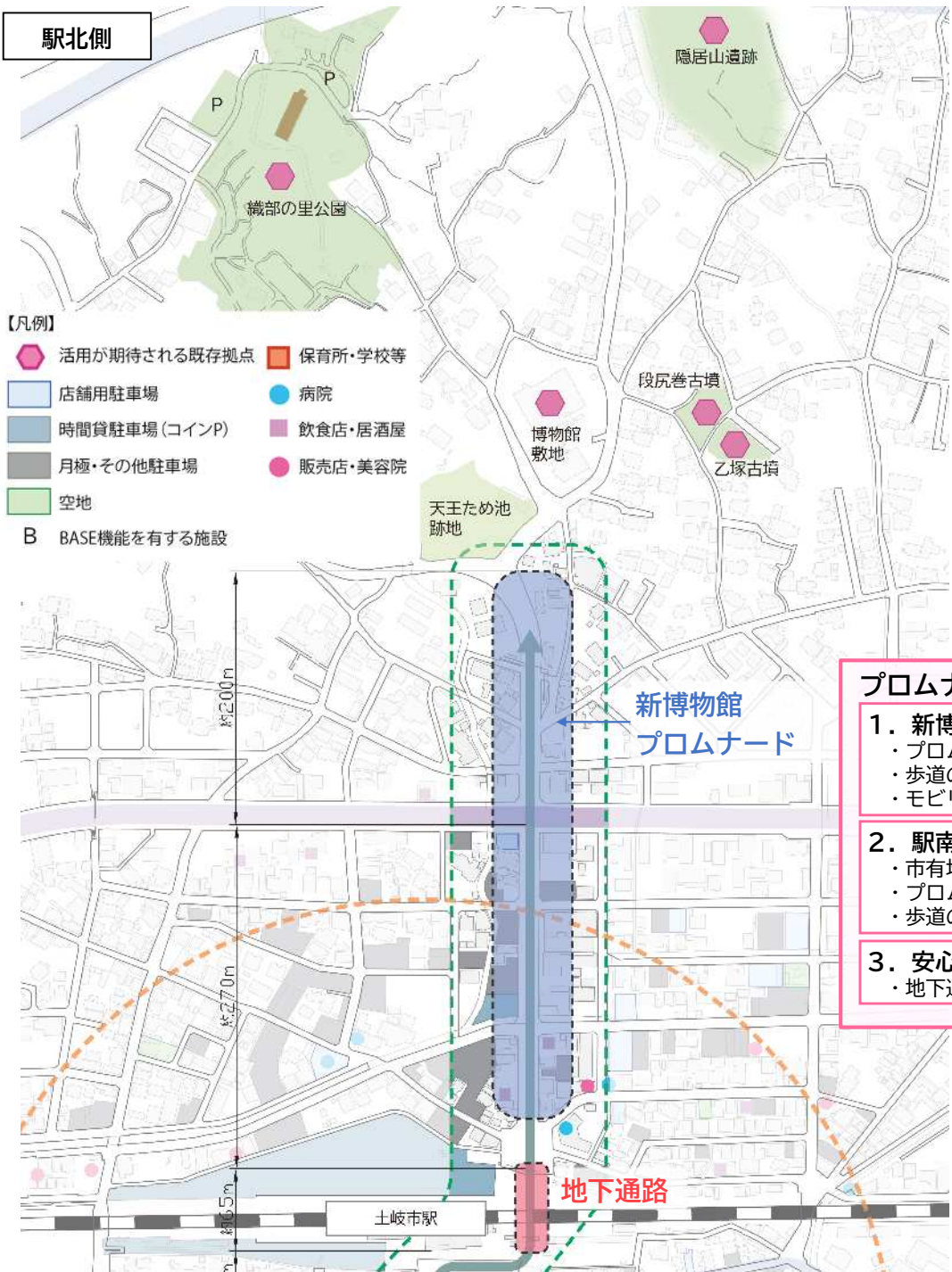
➤公共交通

- ・土岐市駅の1日平均乗客数は、過去10年で約千人減となっている。
- ・市内バスについても、多くの路線で利用者数は減少しており、近年は路線の縮小や廃止等も行われている。

主な課題

- ① 新博物館の開業に合わせ、回遊性を高める歩行者空間の形成
- ② 身近な緑空間の形成
- ③ 沿道の土地利用の促進





- プロムナードの形成**
- 1. 新博物館プロムナードの形成**
 - ・プロムナード沿道の民有地の緑化支援
 - ・歩道の高質化検討
 - ・モビリティ導入の検討
 - 2. 駅南プロムナードの形成**
 - ・市有地等でコミュニティガーデンの整備
 - ・プロムナード沿道の緑化推進
 - ・歩道の高質化検討
 - 3. 安心して通行できる地下通路**
 - ・地下通路の改修



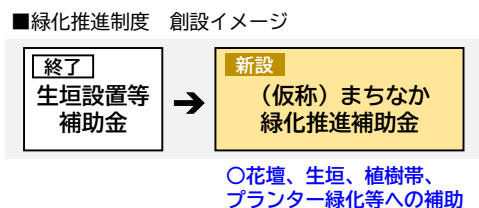
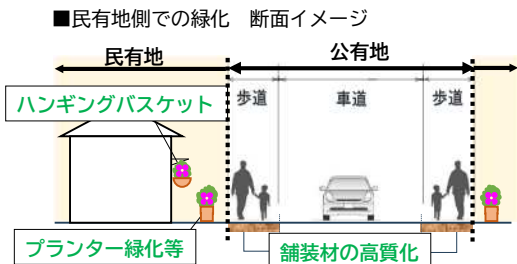
- プロムナード沿道の充実化に向けた調査・検討**
- 1. 駅南プロムナード沿道の一層の活用**
 - ・コミュニティガーデンの整備
 - 2. 駅周辺における自動車交通網の最適化**
 - ・駅北側からのアクセス性向上に向けた可能性検討
 - ・まちづくりとの相乗効果を高める都市計画道路に係る調査

展開プロジェクト 3

先導プロジェクト5 プロムナードの形成

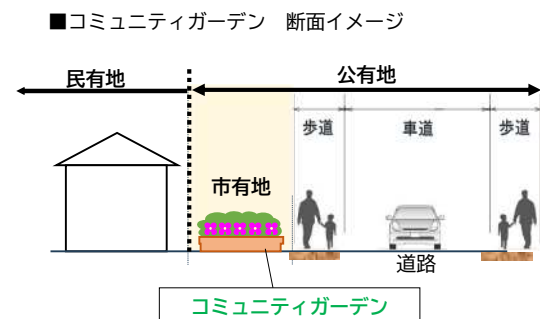
1. 新博物館プロムナードの形成

- ① プロムナード沿道の民有地の緑化支援
 - ・ 民有地内での緑化を支援
 - ・ 個人・団体向けに緑化補助制度を新設
 - ・ 花壇、生垣、植樹帯、プランター、ハンギングバスケット、壁面緑化の費用を一部助成
- ② 歩道の高質化検討
 - ・ 舗装材の変更等の検討
 - 例) インターロッキングブロック舗装 陶器や廃陶器を活用した舗装 等
- ③ モビリティ導入の検討
 - ・ シェアサイクルや新たなモビリティ（ポート）の導入を検討



2. 駅南プロムナードの形成

- ① コミュニティガーデンの整備
 - ・ ゆのみの里広場等候補地でのコミュニティガーデンを整備
 - ・ 花壇を整備し、市民（団体）により花や緑を管理し、地域の憩いや交流の場を創出
- ② プロムナード沿道の緑化推進
 - ・ 新博物館プロムナードの内容と同様



3. 安心して通行できる地下通路

- ① 地下通路の改修
 - ・ 内装の美化、照明設備の改修、案内誘導サインの改修等
 - ・ 壁面への展示スペース設置等、有効な使い方を検討

■地下通路 改修イメージ



(出典：藤沢市)

■美濃焼タイルを用いた改修イメージ



展開プロジェクト3 潤いあるまちなかと駅への利便性を高める取組み等の検討

1. 駅南プロムナード沿道の一層の活用

- ① コミュニティガーデンの整備
 - ・ 他候補地（市有地及び民有地）におけるコミュニティガーデンの整備

■コミュニティガーデン イメージ



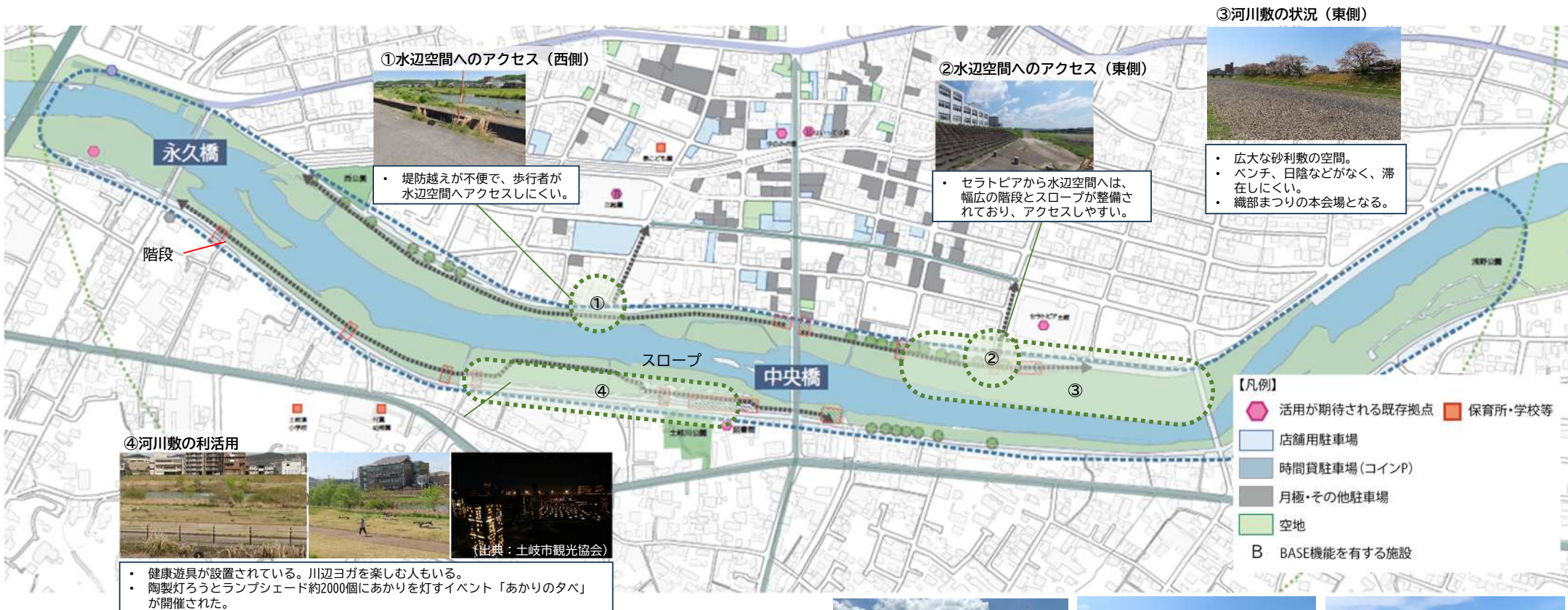
(出典：国土交通省)

2. 駅周辺における自動車交通網の最適化

- ① 駅北側からのアクセス性向上に向けた可能性検討
 - ・ 駅北側との連携強化や回遊性の向上に向け、駅へのアクセスのあり方について検討
- ② まちづくりとの相乗効果を高める都市計画道路に係る調査
 - ・ 土地利用や都市基盤等について調査・研究等を実施

現況

- 河川両岸には広場、遊歩道が整備されており、一部では健康器具が設置されている。
- 日常的に散歩やジョギングをする人の姿が見られる。
- 河川敷は広大な空間が広がり、織部まつりの会場として利用されるなど、イベント時には多くの人が集まる場として機能している。
- 地元の小・中学校の環境学習や市民団体等による清掃活動も実施されている。



主な課題

- ① 日常的に水辺空間との滞在・交流・活動できる空間の充実
- ② 豊かな自然環境を活かした環境教育の充実
- ③ 河川を活用した活動・取組みの周知



展開プロジェクト1 水辺軸の利用促進

1. 水辺の利用促進に向けた仕組み等の検討

ハード整備に依存せず、ソフト施策を中心に水辺の利活用を進め、水辺軸を「使われる空間」「関わりが生まれる空間」にする活動、仕組み等を検討する。

想定する活動

① アウトドア活動

- 幅広い世代が気軽に水辺を利用できる機会を創出し、日常的な滞在と交流の促進を図る。

例) 水辺ヨガ、朝の読書会
星空の観察会、青空映画上映会

② 環境保全活動

- 水辺空間への愛着や関心を高めるとともに、良好な自然環境の維持・保全につなげる。

例) 生物調査
市民・団体等の連携による清掃活動等

■アクティビティイベント イメージ



(出典：国土交通省「河川空間のオープン化活用事例集」)

■環境保全活動 イメージ



(出典：国土交通省HP)

③ 環境教育

- 学校教育と連携した、水辺を活用した環境教育の場づくりを推進する。

例) 総合学習・ふるさと学習の場（小学校カリキュラムとの連携）、自然観察会等

■学校教育等との連携 イメージ



(出典：国土交通省HP)

2. 土岐川公園等との一体的利用

① 河川、公園、図書館を活かしたイベント等の実施

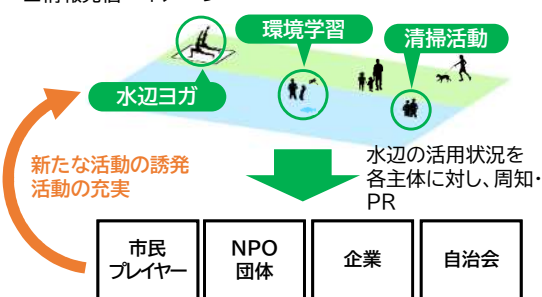
例) 環境教育と公園での飲食イベント等の同時開催

3. 水辺の魅力発信・利用拡大に向けた情報発信

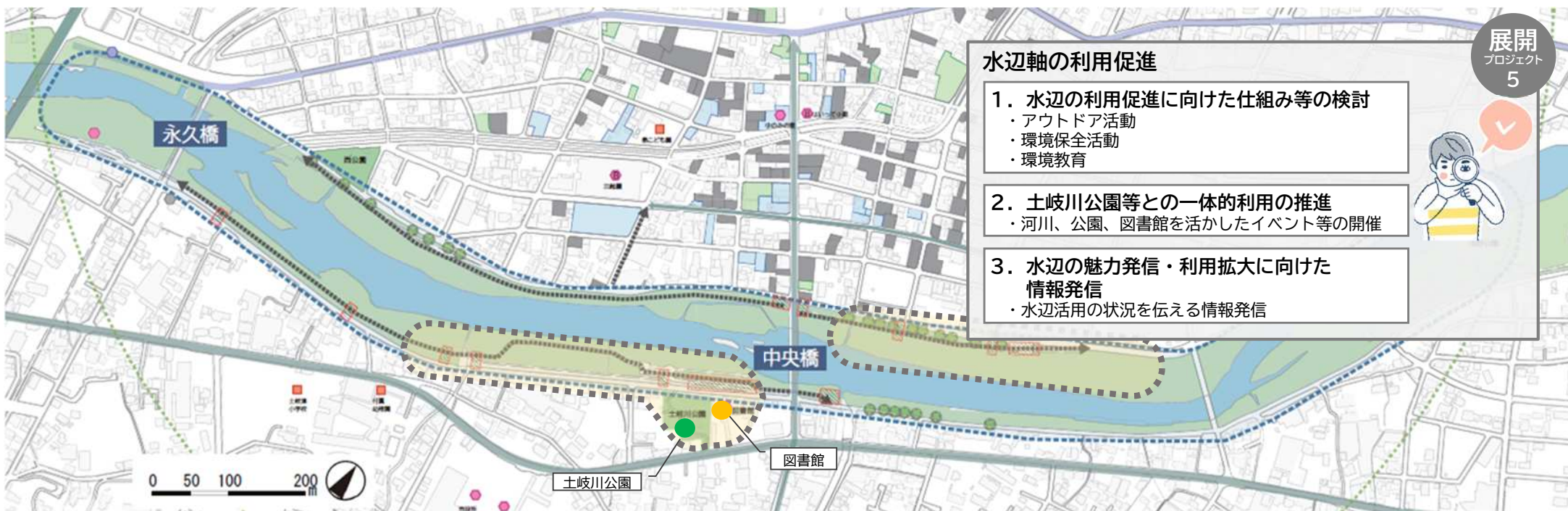
① 水辺活用の状況伝える情報発信

- まちなかでの取組みに興味がある方に対する周知・PRの実施。

■情報発信 イメージ



※詳細は、「4. 計画の推進体制」を参照



水辺軸の利用促進

1. 水辺の利用促進に向けた仕組み等の検討
 - ・アウトドア活動
 - ・環境保全活動
 - ・環境教育
2. 土岐川公園等との一体的利用の推進
 - ・河川、公園、図書館を活かしたイベント等の開催
3. 水辺の魅力発信・利用拡大に向けた情報発信
 - ・水辺活用の状況伝える情報発信

展開プロジェクト 5





美濃焼文化の拠点

先導4

- 新博物館及び周辺整備等
 1. 新博物館整備【※産業文化部で別途検討中】
 2. 新博物館への誘客に向けた動線検討

まちなか交流軸

先導5

- プロムナードの形成
 1. 新博物館プロムナードの形成
 2. 駅南プロムナードの形成
 3. 安心して通行できる地下通路

展開

- 潤いあるまちなかと駅への利便性を高める取組み等の検討

多様な育みのゾーン

まちなか居住の推進

先導1

- 新たなライフスタイルを提案する住環境の形成
 1. まちなかオアシスの形成
 2. 駅南プレイスの形成
 3. まちなか居住先導ゾーンの形成
 4. 駅南プロムナードの形成

先導2

- まちなか居住を推進するための支援制度等の創設・拡充
 1. 土地活用ニーズの把握
 2. 支援制度の創設・拡充

展開

- まちなか全体への波及等を促す取組みの検討

BASE（居場所）の段階的設置・自律的運営

先導3

- 持続可能なBASEの形成
 1. 2nd BASEの形成
 2. 1st BASEの持続可能性の向上

展開

- BASE機能の維持・拡充

まちなか水辺軸

展開

- 水辺軸の利用促進

【凡例】

- 活用が期待される既存拠点
- 主要施設等

土岐まちなか全体

0 50 100 200

4-1. 基本方針

➤ 基本的な考え方

- ① まちづくり全体としての方向性の保持
- ② 公も民も関与が難しい課題への対応に向け、公民連携による取組推進
- ③ 個々の主体による取組の相乗効果の獲得に向け、多様な主体の参加促進

➤ 推進体制・仕組み

- まちづくり全体の取組みを俯瞰し、評価、方針を提案する体制、組織づくり
- 市民プレイヤー等をはじめ多様な主体を繋ぐ場の設置
- まちづくりを先導・牽引する公民の中間組織の設置・活動の支援

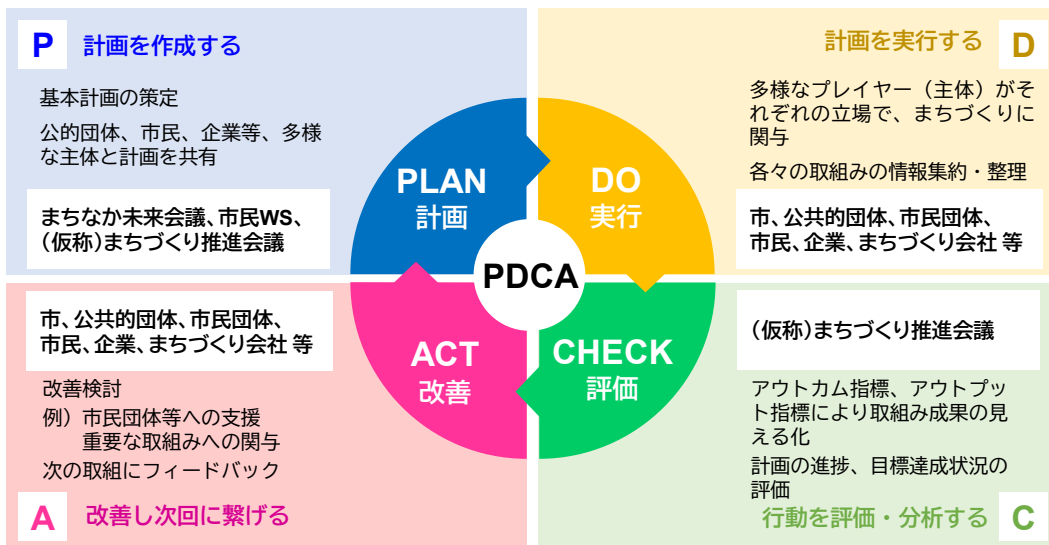
- 4-2. (仮称)土岐市駅周辺まちづくり推進会議
 - 4-3. 土岐市まちなかプラットフォーム
 - 4-4. まちづくり会社等

• 情報収集・発信の効果的な展開に向けた仕組みづくり

➤ マネジメント手法

PDCAサイクルの考え方に基づき、計画、実行、評価、改善を継続的に実施

➤ 取組みイメージ (PDCAサイクル)



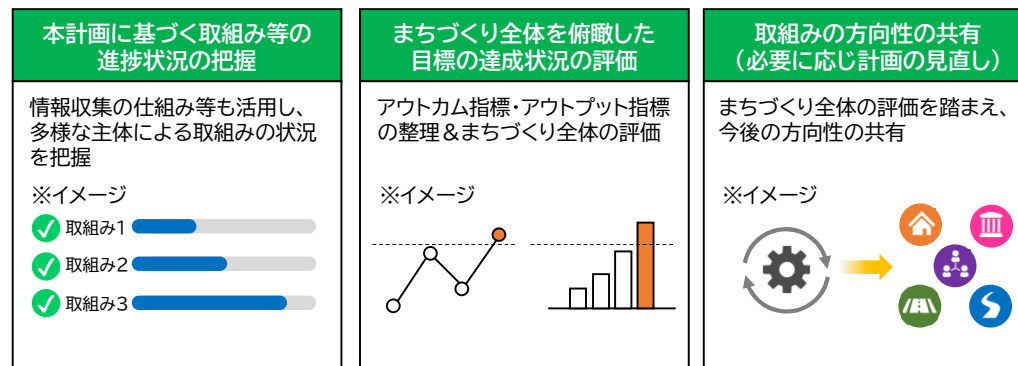
4-2. (仮称)土岐市駅周辺まちづくり推進会議

➤ 目的

- 土岐市駅周辺におけるまちづくりの関係者が、様々な主体による取組み状況を共有
- まちづくり全体を俯瞰し目標の達成状況を把握
- まちづくり全体の方向性を共有しつつ、まちづくりを持続的に推進

➤ 実施内容 (案)

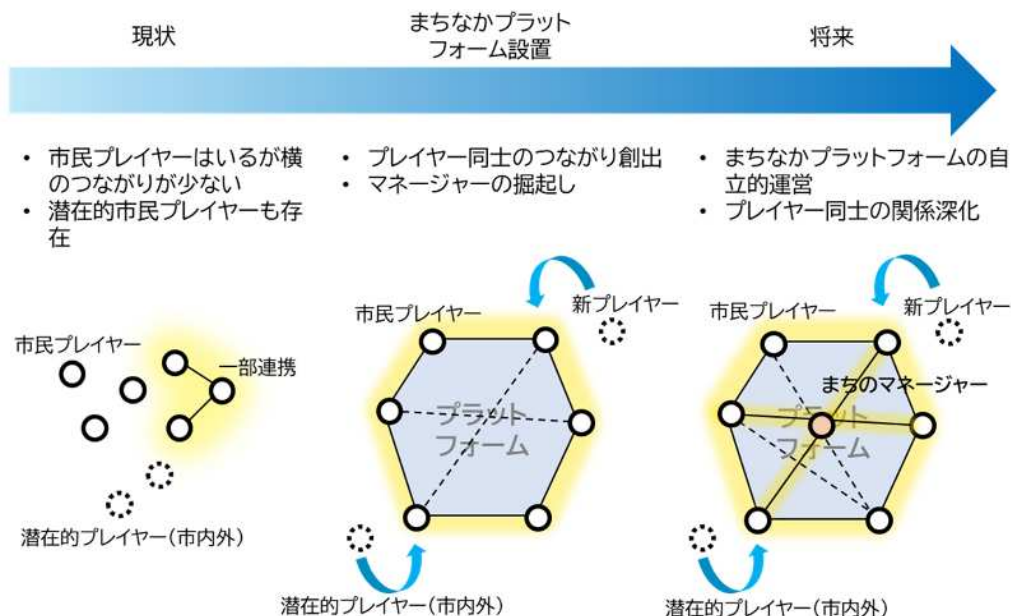
- 本計画に位置付けられた取組み等について、情報収集の仕組みも活用し進捗状況を把握
- 評価指標（アウトカム、アウトプット）を整理したうえで、まちづくり全体を俯瞰し目標の達成状況を評価
- まちづくり全体の方向性の確認と共有、必要に応じ計画の見直し



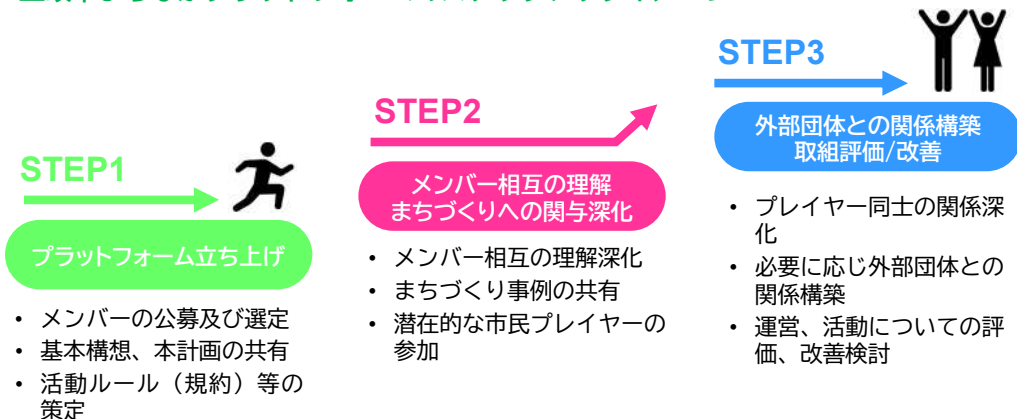
➤ 目的

- まちなかで活動する多様な主体の関与と連携を図る「関係性のインフラ」として、市民が、相互理解・交流・連携・共創を図るため場（土岐市まちなかプラットフォーム）を設置

■プラットフォーム形成 イメージ図



➤ 土岐市まちなかプラットフォームのステップアップイメージ



➤ 目的

- 公民の中間組織として、まちづくりに関わる様々な主体と行政を繋ぐとともに、まちなかにおける先導的な取組みを遂行し、まちづくりを推進する中核的な役割を担う。

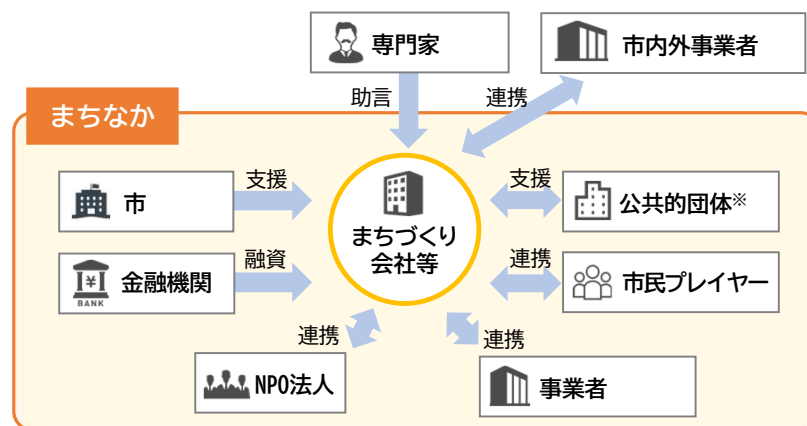
➤ 課題・設置に向けた取組み

課題	設置に向けた取組み	(具体例)
(i) まちづくり会社等が担う役割の明確化	(i) 中間組織に相応しい業務の抽出	BASE運営、補助金運用、コミュニティガーデンの管理、情報収集・発信 等
(ii) まちづくりを担う人材の掘起し・育成	(ii) まちなかプラットフォーム等の活動を通じた人材発掘・育成	担い手の発掘 等
(iii) 出資金、運営資金の確保	(iii) 自主事業、市の委託業務の検討	クラウドファンディング、指定管理等の受託 等

➤ まちづくり会社等のステップアップイメージ



➤ まちづくり会社等 将来イメージ



※商工会議所、青年会議所、観光協会 等を想定

現状

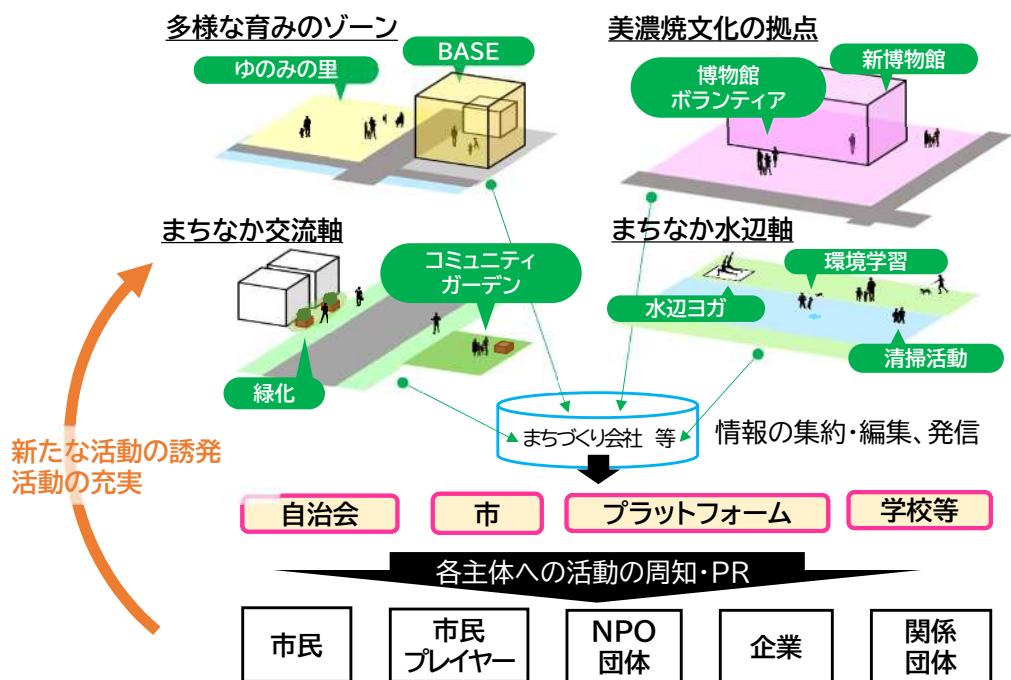
- それぞれの主体が情報発信
- 情報が分散し、まちなか全体の取組等の状況把握が困難
- 市民、来訪者への継続的・体系的な情報発信が容易ではない

課題

- まちづくりに関する効率的な情報収集
- ターゲットごとに分かりやすい情報発信
- 情報発信の持続性の向上 等

情報収集・発信、活用の仕組み

- まちづくり会社等をハブとし、まちなかで展開される取組・活動等の継続的な情報収集
- 来訪者、市民、市内外の子育て世代などのターゲットに訴求する情報の編集
- まちづくり会社等と、市、自治会、プラットフォーム、学校、子ども園等が協働で発信



※情報収集・編集・発信のイメージ

基本計画の実現に向け、関係者に期待される役割を下表のとおり整理する

	市	公共的 団体 ※1	市民 自治会 NPO法人	民間 事業者	まちづく り会社等 ※2	
多様な育 みのゾー ン	先導1:新たなライフスタイルを提案する住環境の形成					
	まちなかオアシスの形成	◎	○	◎	○	○
	駅南プレイスの形成	◎			◎	
	まちなか先導居住ゾーンの形成	◎			◎	
	先導2:まちなか居住を促進するための支援制度等の創設					
	土地利用ニーズの把握	◎		○		
	支援制度の創設・拡充	◎				
	先導3:持続可能なBASEの形成					
	2nd BASEの形成	○	○	◎	○	○
1st BASEの持続可能性の向上	○			◎		
美濃焼文 化の拠点	先導4:新博物館及び周辺整備					
	サードプレイス・ミュージアムの整備	◎	○	○		
	新博物館への誘客に向けた動線検討	◎		○	○	
まちなか 交流軸	先導5:プロムナードの形成					
	新博物館プロムナードの形成	◎	○	◎	○	
	駅南プロムナードの形成	◎	○	◎	○	
	安心して通行できる地下通路	◎		○		

※1 商工会議所、青年会議所、観光協会 等を想定

※2 まちづくり会社等の役割については、設置時期等を踏まえ必要に応じ見直し

▶ 基本的な考え方

- ① 早期に支援制度を創設し、まちなか居住やBASE形成、市民活動の活性化等を図る
- ② 2029年度初旬の新博物館開館に合わせ、地下通路の修景などの歩行者空間の高質化、情報発信の充実化を図る
- ③ 駅周辺の拠点形成に向けて、市有地・民有地の活用やBASEの形成・自立化を図る

